

<編 集 後 記>

昭和41年秋の全国学会が広島大学で10月8日に開かれた関係上、当支部の学会を11月中に開催できず、12月は寒さと歳末の慌しさで不適當であり、1月以降は各校とも行事が多く、延引して3月になって終い、而も3月31日に広島大学で行なったことは、一つには私の怠慢にもよることでお詫びを申したい。当支部の紀要は昭和33年春の学会総会で、学会誌として認められたものだけに、その權威を保つ為に支部会員は、研究発表にも真摯な態度で臨んでいることが看取されるのは力強いことと思う。本号所収の論文5篇中3篇が期せずして同一作者を扱い、それぞれ異った而も新しい観点から論じ、相当の労作であることからその一端が察知できよう。

昭和34年12月に第1号が出てから遂に9号まで会員の努力が続けられて来たことを特筆して、今後も益々精緻な研鑽を収録する当支部の紀要として学会に精彩を放ち続けることを祈って止まない（中村）。